

# 文化財ニュース いわき

第 66 号

平成 23 年 2 月 18 日

財団法人いわき市教育文化事業団  
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1  
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

## がき どうよこあなぐん 餓鬼堂横穴群の発掘調査

—馬具をともなう装飾横穴の発見—

(現地説明会平成 23 年 2 月 19 日)

餓鬼堂横穴群は、いわき市平薄磯字餓鬼堂・北ノ作地内にあります。薄磯海岸の北側にあたり、海の近くまで突き出した丘陵の東の端に位置しています。海面から約 20 m の高さの急な崖の中腹に古墳時代のお墓がたくさん造られていました。平成 17 年度から、この崖が崩れることを防ぐための工事が始まり、これまで 12 基の横穴が調査されました。その結果、鉄製の武器や馬具・工具、<sup>まがたま</sup>勾玉や<sup>くだだま</sup>管玉などの玉類、土器や人骨など、貴重な副葬品が多数発見されています。

平成 22 年度は 13 基の調査がおこなわれ、今回も貴重な遺構や遺物が見つかりました。なかでも第 23 号横穴は、天井が屋根のような形に造られており、天井や壁面が赤色顔料で装飾されていたことがわかりました。床面からは、金や貝で装飾された馬具や各種の玉類、刀など多様な副葬品が見つかり、中田装飾横穴との関係など、いわき地方の歴史の解明に大きな手がかりを与えることになりました。



第 23 号横穴出土の馬具 上段 3 点：鈴杏葉 下段左：雲珠 下段中：辻金具  
下段左 2 点：貝製飾金具



天井は四隅に稜のある家形をしています。天井と壁は赤く塗られていました(23号)。



天井や壁には工具の痕が明瞭に残っています。



玄室の入口は石を積んで閉じられていました。

#### 家形構造をもつ装飾横穴

第23号横穴は最も規模が大きく、遺体を安置した部屋(玄室)の規模は全長3.5m、最大幅3.3m、高さ2.2mで、床面積は約7畳の広さになります。天井の形は、これまで調査された横穴のドーム型とは異なり、四隅に稜を有する家形をしていました。天井や壁は工具を使っていねいに仕上げられ、表面には赤色顔料が塗られていました。

また、部屋(玄室)の入り口(玄門)の外側に石を積み上げて閉じられていた痕跡が残っており、石が外れないように棒や板で支えるための穴も確認されました。

いわき市内では赤色の装飾が確認されたのは、中田装飾横穴(沼ノ内)・腰巻横穴群A 18号横穴(神谷作)に続き3例目となりました。天井が家形の横穴はこれまで市内には2例あります。

とじておきましょう。



刀や馬具類（鈴杏葉・雲珠・辻金具など）が密集した状態で見つかりました。

### 第23号横穴に副葬されていたもの

赤く装飾された第23号横穴からは、身分の高い人が乗る馬を飾る馬具が出土しました。

馬具には青銅製の鈴杏葉や南方の海にしか棲息しないイモガイを加工した雲珠や辻金具などがあります。雲珠や辻金具は金メッキ加工されています。これらはいずれも高い加工技術を必要とするものです。

また、ヒスイ・メノウ・コハクから作られた色とりどりの勾玉や碧玉（深緑色の石）で作られた管玉、青いガラス玉など加工の難しい装飾品も多数出土しています。

これらの副葬品は、中央政権から授けられたものと考えられることから、ここに葬られた人物は中央政権と強い結びつきを持っていたことを示しているのかもしれません。

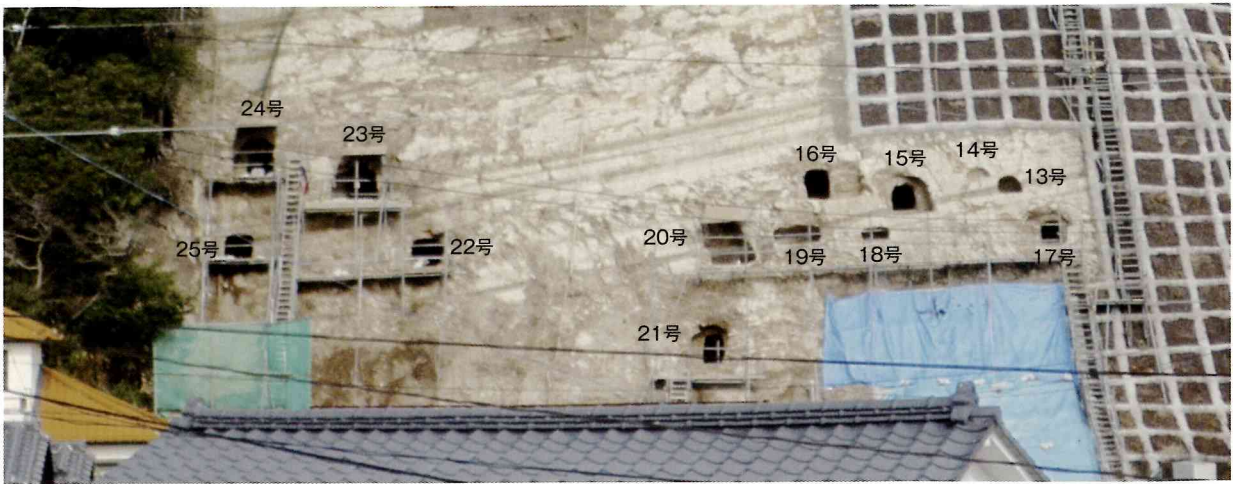


大刀の柄頭2点が並べて置かれていました。



玉類 上段左：ヒスイ製勾玉 上段中：メノウ製勾玉  
 上段右：琥珀製勾玉 下段左：碧玉製管玉  
 下段中：琥珀製秦玉 下段右：ガラス製小玉

とじておきましょう。



餓鬼堂横穴群平成 22 年度調査範囲

右：土器類 須恵器甕と土師器高杯です。入口付近（羨道）から出土しました。埋葬の後に墓前で行う儀式に使われたものと考えられます（24号）。

下左：鉄刀 入口（玄門）の壁ぎわから出土しました。刀を納めたさやも一部残っています（21号）。

下右：線刻画 ノミで人物が彫られています。横穴が造られた時代より後に描かれたものとみられます（25号）。



**いわき市内の装飾横穴** いわき市内ではこれまで2例の装飾横穴が見つかっています。

**中田装飾横穴（国指定史跡）** 餓鬼堂横穴群から西へ約 1kmに位置しています。昭和 44 年に県道工事の際に発見されました。壁面に朱と白で三角形の模様が 3 段に描かれています。また、馬具や武器・鏡・装身具・銅鏡蓋・土器など多くの遺物が出土し、6 世紀後半に造られたとされています。

**腰巻横穴 A 群 18 号横穴（市指定史跡）** 餓鬼堂横穴群から北西へ約 3kmに位置しています。平成 16 年に発見され、壁面に朱色で帯状の装飾が施されています。